

1 安土後方への矢の飛び出しを防ぐ

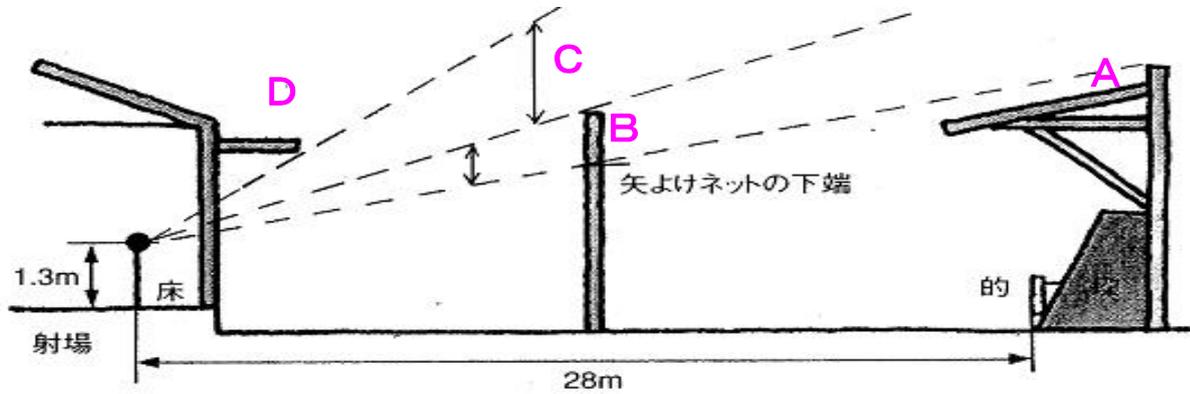
中心が地上27cmにある的を狙うため極端に上に外れる矢は少ないが可能性としてはある。特に初心のうちに、矢が弓手から大きく浮いたまま離してしまう、妻手で下方向に引っ張りながら離してしまう。などが考えられる。
この場合、矢は大きく上にそれて場合によっては的場の屋根（A）を越えてしまう。写真の道場は的場の屋根（A）の高さが約4mである。
その4mを超える矢を防ぐために矢道の中央にネット（B）を設置しなければならない。写真のネット（B）の高さは6mである。



この道場のネット(B)は上端の高さが地上6mであるが、道場内の射位からみると、庇とネット上端の間に隙間(C)が見える。この隙間を埋めるために庇(D)から1m弱ネットを垂らす方法もある。ただこの場合、たらししたネットが風に影響されない工夫が必要となる。



ネットを設置する位置は道場に近ければ低くてすむが、圧迫感がある。防矢ネットのほか板を使う場合もあるが、重量があるためしっかりした支柱が必要となる。



図は「弓道」白石暁 著 ベースボールマガジン社より引用

弓道は他の運動部活動と比べても非常にケガの少ない競技である。しかし、事故の可能性という観点から見ると、危険防止のための施設は非常に重要である。「まさか起きないだろう」というところから事故は起こる。施設の安全管理で防ぐことができる事故は未然に防ぎたい。

2 矢道の前(的正面に向かって右側に出る矢)を防ぐ

弓道では特に初心者のうちに、的の前(的に向かって右)に大きくはずれる場合がある。弓の右側にある矢が、弓から離れた(矢こぼれ)時に離してしまうのである。初心の間は弓手が弱く的の前に矢が飛びやすい。矢道の前側(的正面に向かって右側)には矢が飛び出ないように、また人などの侵入が絶対にならないようにしたい。写真のネットは高さ4mである。ネットの後方は通路であり、多くの生徒が行き来する。



3 弓道場外からの人やボールなどの侵入を防ぐ

学校では当然のことであるが、弓道部以外の部も同じ時間に活動している。矢道に野球のボールが飛んできた場合、そのボールを取りに来た野球部員が矢道に入ってくることは容易に想像できる。また、行射中の射手に直接ボールが当たった場合、暴発など大きな危険が考えられる。写真の学校では矢道の後ろ側(的正面に向かって左側)で、野球、陸上競技、サッカーが活動している。ボール、人の侵入を防ぐために高さ4mのネットを設置している。矢がこの方向に飛び出る可能性は反対側に比べれば少ない。

